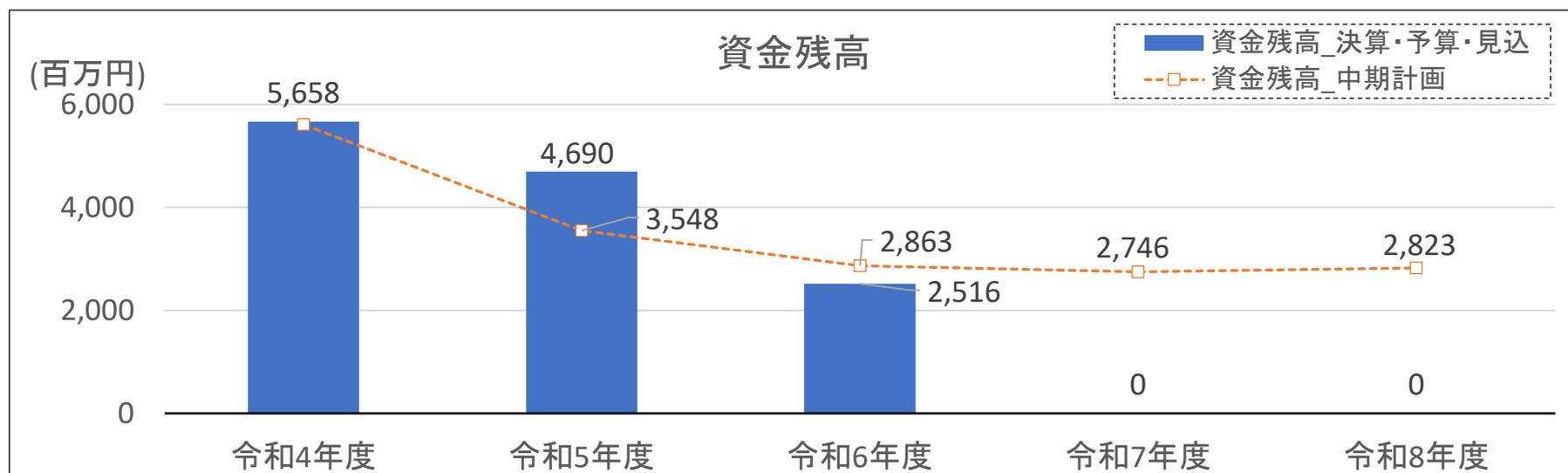
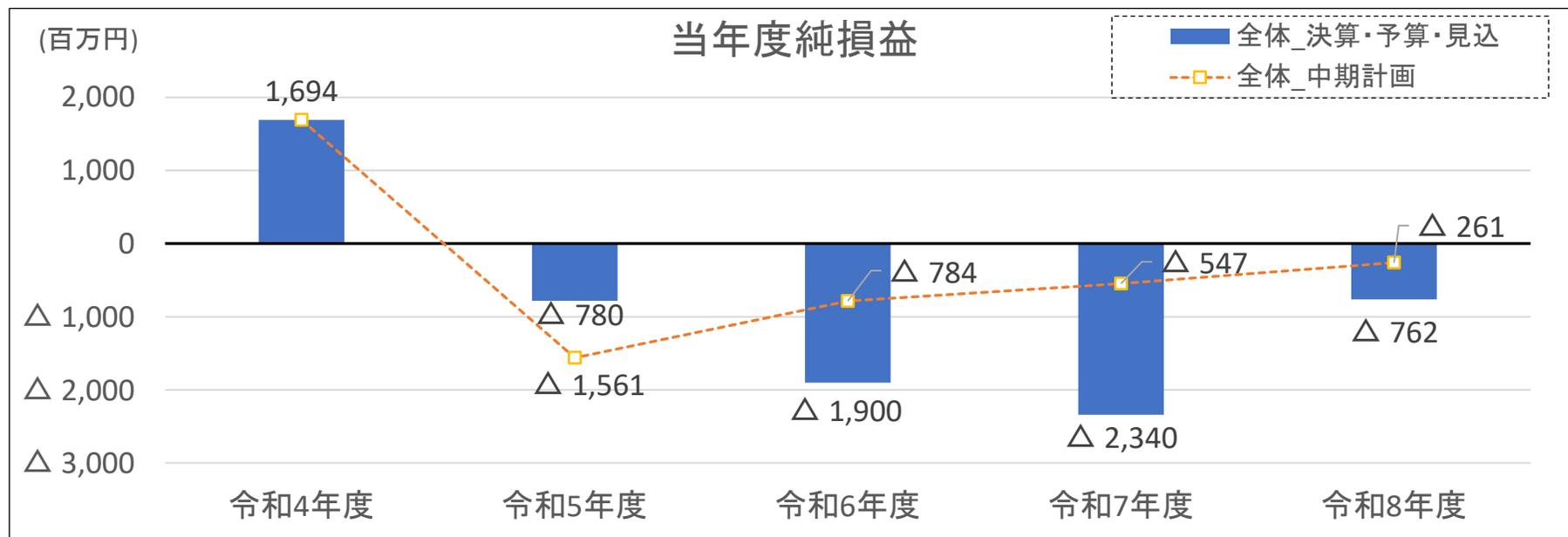


滋賀県立病院の経営状況について

1 経営状況の推移について



※病院事業債(経営改善推進事業)により令和7年度に369百万円、令和8年度に1,417百万円を措置予定であり、病院事業債による措置を反映後の資金残高を記載

2 旧総合病院の経営状況の推移について

○主な医業収益(旧総合病院)

<入院収益>

		令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
入院収益	中期計画	9,860百万円	10,678百万円	12,693百万円	12,806百万円	13,260百万円
	実績・見込	9,860百万円	10,622百万円	11,538百万円	11,970百万円	13,331百万円
入院単価	中期計画	74,201円	77,704円	80,000円	80,000円	80,000円
	実績・見込	74,201円	76,653円	81,574円	85,645円	86,961円
病床稼働率	中期計画	68.1%	70.2%	81.3%	81.3%	89.1%
	実績・見込	68.1%	70.8%	72.4%	71.6%	86.1%

※中期計画の令和8年度の病床稼働率は病床数488床で再計算

<外来収益>

		令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
外来収益	中期計画	4,643百万円	5,237百万円	5,159百万円	5,108百万円	5,108百万円
	実績・見込	4,643百万円	5,137百万円	5,260百万円	5,573百万円	6,374百万円
外来単価	中期計画	23,094円	25,846円	25,000円	25,000円	25,000円
	実績・見込	23,094円	25,394円	25,327円	26,729円	27,156円
1日当たり 外来患者数	中期計画	827人/日	835人/日	850人/日	850人/日	850人/日
	実績・見込	827人/日	832人/日	855人/日	862人/日	974人/日

2 旧総合病院の経営状況の推移について

○主な医業費用(旧総合病院)

(百万円:税抜)

		令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
給与費	中期計画	8,910	9,415	9,542	9,583	9,662
	実績・見込	8,910	9,122	9,965	10,332	10,534
薬品費	中期計画	2,815	3,458	3,287	3,222	3,275
	実績・見込	2,815	3,368	3,396	3,272	3,723
診療材料費	中期計画	1,891	2,095	2,314	2,400	2,437
	実績・見込	1,891	2,029	2,298	2,580	2,827

○資本的収支(旧総合病院)

(百万円:税込)

		令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
建設改良費	中期計画	1,356	2,765	4,587	2,389	1,859
	実績・見込	1,356	2,596	3,775	1,019	1,129
企業債償還金	中期計画	1,873	1,993	1,503	1,624	1,793
	実績・見込	1,873	1,993	2,007	2,579	2,653
収支差	中期計画	△ 1,964	△ 2,070	△ 1,568	△ 1,707	△ 1,876
	実績・見込	△ 1,964	△ 2,074	△ 2,051	△ 2,601	△ 2,660
補てん財源	中期計画	2,403	211	917	1,388	1,754
	実績・見込	2,403	734	△ 17	△ 2	1,169
財源不足	中期計画	439	△ 1,859	△ 651	△ 319	△ 121
	実績・見込	439	△ 1,340	△ 2,067	△ 2,603	△ 1,491

3 旧小児保健医療センターの経営状況の推移について

○主な医業収益(旧小児保健医療センター)

<入院収益>

		令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
入院収益 ※高額医薬品除く	中期計画	1,089百万円	1,230百万円	1,649百万円	1,638百万円	1,638百万円
	実績・見込	1,089百万円	1,288百万円	1,341百万円	1,554百万円	1,869百万円
入院単価 ※高額医薬品除く	中期計画	69,057円	72,435円	78,150円	78,150円	78,150円
	実績・見込	69,057円	74,623円	75,673円	93,269円	88,301円
病床稼働率	中期計画	43.2%	46.4%	57.8%	57.8%	57.8%
	実績・見込	43.2%	47.1%	48.6%	45.7%	58.0%

※高額医薬品:令和6年度 ゾルゲンスマ(167百万円×2)、令和7年度 エレビジス(480百万円)

<外来収益>

		令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
外来収益	中期計画	749百万円	788百万円	824百万円	815百万円	815百万円
	実績・見込	749百万円	802百万円	853百万円	873百万円	899百万円
外来単価	中期計画	17,411円	17,846円	17,581円	17,581円	17,581円
	実績・見込	17,411円	17,824円	18,188円	17,202円	15,938円
1日当たり 外来患者数	中期計画	177人/日	182人/日	193人/日	193人/日	193人/日
	実績・見込	177人/日	185人/日	193人/日	210人/日	234人/日

3 旧小児保健医療センターの経営状況の推移について

○主な医業費用(旧小児保健医療センター)

(百万円:税抜)

		令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
給与費	中期計画	1,636	1,729	1,834	1,815	1,821
	実績・見込	1,636	1,668	1,744	1,764	1,982
薬品費 ※高額医薬品除く	中期計画	280	348	362	422	422
	実績・見込	280	321	317	350	405
診療材料費	中期計画	189	208	222	203	203
	実績・見込	189	216	207	128	271

※高額医薬品:令和6年度 ゴルゲンスマ(167百万円×2)、令和7年度 エレビジス(480百万円)

○資本的収支(旧小児保健医療センター)

(百万円:税込)

		令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
建設改良費	中期計画	64	45	66	100	100
	実績・見込	72	46	51	50	149
企業債償還金	中期計画	137	127	66	62	62
	実績・見込	137	127	65	59	49
収支差	中期計画	△ 140	△ 131	△ 71	△ 65	△ 65
	実績・見込	△ 140	△ 132	△ 72	△ 64	△ 99
補てん財源	中期計画	905	57	142	287	288
	実績・見込	905	261	70	112	99
財源不足	中期計画	765	△ 74	71	222	223
	実績・見込	765	129	△ 2	49	△ 0

4 精神医療センターの経営状況の推移について

○主な医業収益(精神医療センター)

<入院収益>

		令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
入院収益	中期計画	897百万円	866百万円	1,013百万円	1,006百万円	1,006百万円
	実績・見込	897百万円	859百万円	926百万円	891百万円	1,048百万円
入院単価	中期計画	30,028円	28,287円	28,619円	28,428円	28,428円
	実績・見込	30,028円	27,999円	28,056円	28,371円	29,900円
病床稼働率	中期計画	66.6%	68.0%	78.9%	78.9%	78.9%
	実績・見込	66.6%	68.2%	73.5%	69.9%	78.0%

<外来収益>

		令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
外来収益	中期計画	198百万円	200百万円	233百万円	231百万円	231百万円
	実績・見込	198百万円	203百万円	185百万円	162百万円	210百万円
外来単価	中期計画	8,506円	8,562円	8,479円	8,390円	8,390円
	実績・見込	8,506円	8,685円	8,452円	7,580円	7,434円
1日当たり 外来患者数	中期計画	96人/日	96人/日	113人/日	113人/日	113人/日
	実績・見込	96人/日	96人/日	90人/日	88人/日	117人/日

4 精神医療センターの経営状況の推移について

○主な医業費用(精神医療センター)

(百万円:税抜)

		令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
給与費	中期計画	1,399	1,446	1,473	1,479	1,485
	実績・見込	1,399	1,426	1,472	1,596	1,587
薬品費	中期計画	89	91	97	99	99
	実績・見込	89	94	93	64	62
診療材料費	中期計画	7	6	8	7	7
	実績・見込	7	7	7	8	7

○資本的収支(精神医療センター)

(百万円:税込)

		令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
建設改良費	中期計画	3	643	140	96	53
	実績・見込	3	323	117	315	42
企業債償還金	中期計画	41	34	113	129	138
	実績・見込	41	34	81	94	126
収支差	中期計画	△ 42	△ 36	△ 113	△ 131	△ 140
	実績・見込	△ 42	△ 35	△ 82	△ 102	△ 133
補てん財源	中期計画	31	△ 90	9	111	115
	実績・見込	31	△ 49	△ 110	△ 217	206
財源不足	中期計画	△ 10	△ 126	△ 105	△ 20	△ 24
	実績・見込	△ 10	△ 84	△ 192	△ 319	74

5 総合病院の施設整備の方針について

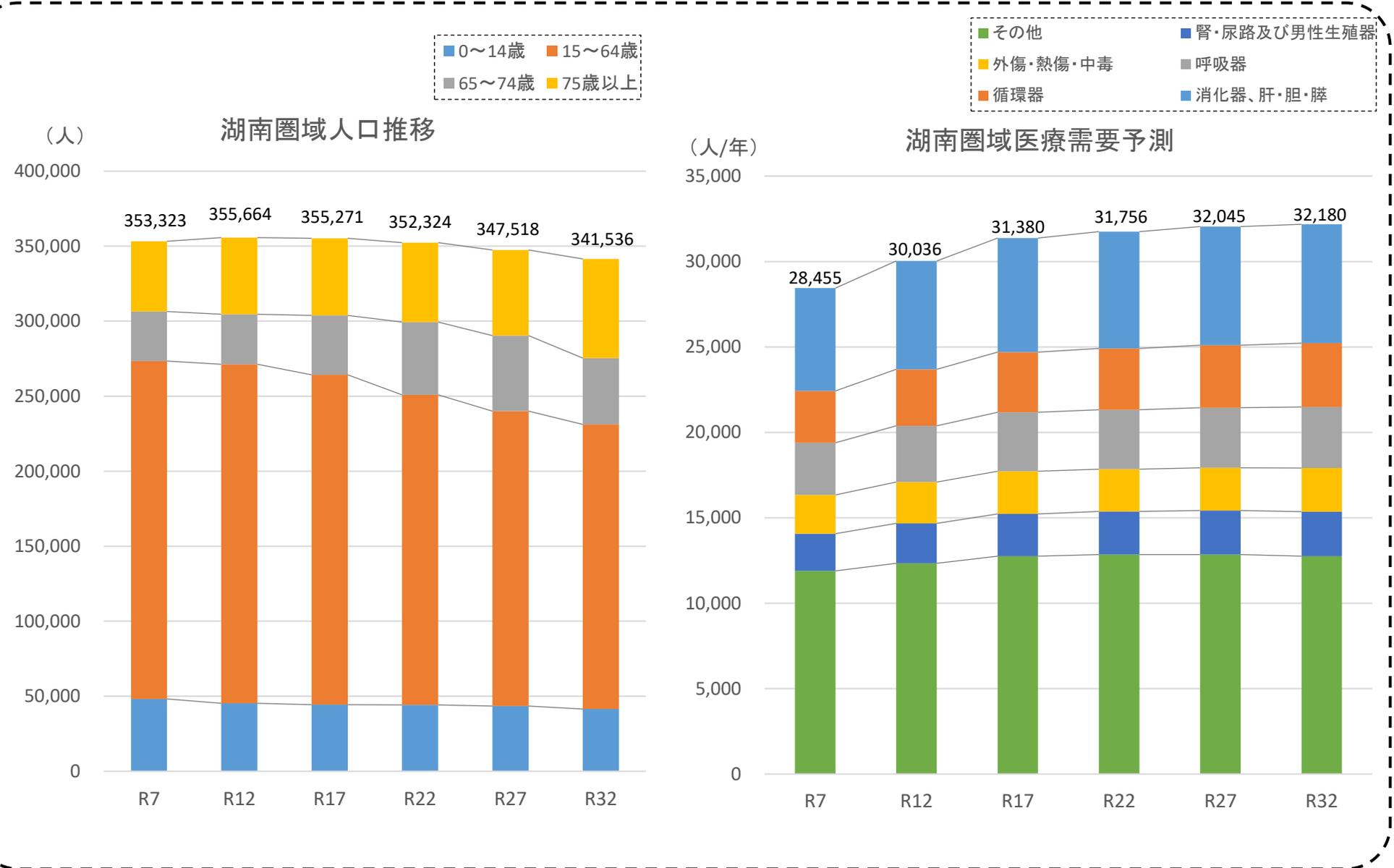
○総合病院の病床数の見直し

	現状	令和8年3月中	令和9年度 (小児病棟移転時)	令和12年度 (小児新棟完成時)
一般病床	535床	<u>488床</u>	488床	488床
小児専用病床	100床	100床	<u>72床</u>	72床
計	635床	588床	560床	560床

- ・小児病棟移転工事のため休床中の本館の一般病床を、令和8年3月中に47床削減する
- ・小児病棟の病床数は令和9年度の病棟移転時に28床削減する
- ・小児病棟は全て本館9階に存置し、小児新棟内には病棟を設けない
- ・小児新棟は供用開始時期を令和13年度中から令和12年度に前倒す

5 総合病院の施設整備の方針について

<参考: 湖南圏域の人口推移・DPC公開データ等に基づく将来の入院患者数の推計>

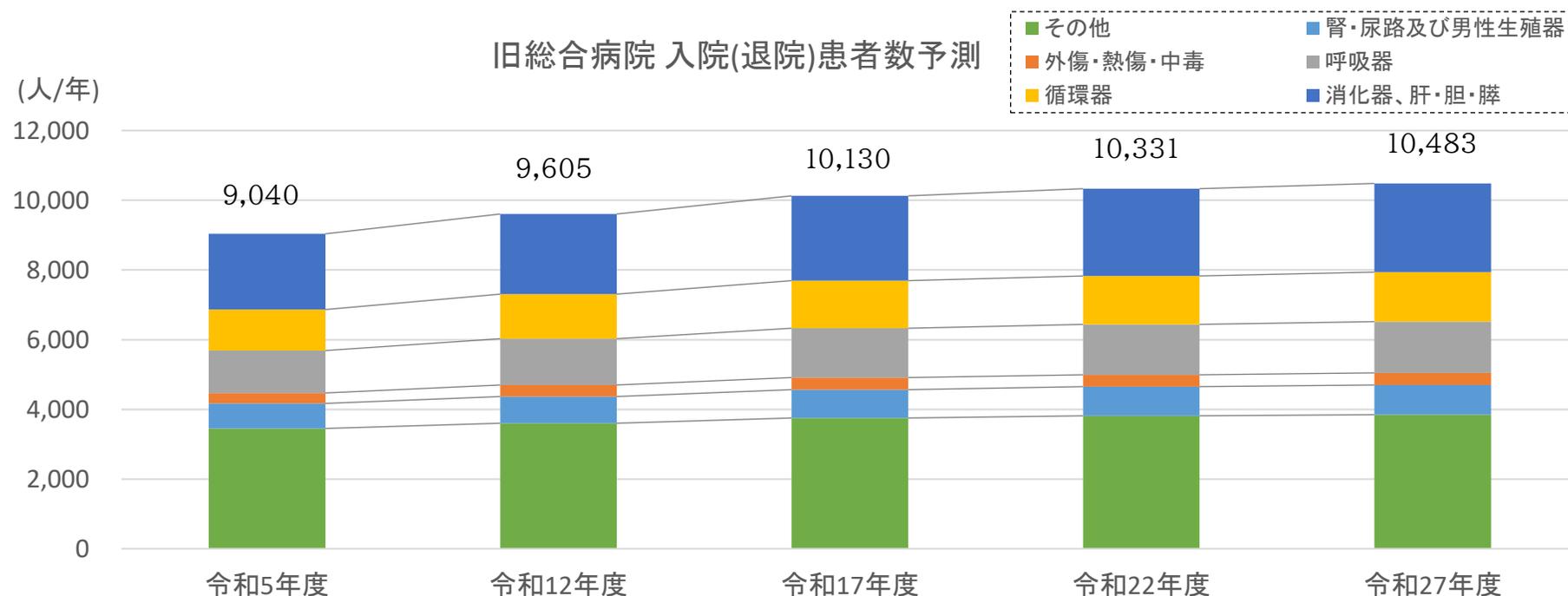


5 総合病院の施設整備の方針について

<参考:人口動態やDPC公開データ等に基づく総合病院の将来の入院患者数の推計>

	令和6年度	令和12年度	令和17年度	令和22年度	令和27年度
旧総合病院	388人/日 (年間延141,439人)	407人/日 (年間延148,371人)	430人/日 (年間延156,881人)	436人/日 (年間延158,971人)	441人/日 (年間延161,027人)
旧小児保健医療センター	49人/日 (年間延17,725人)	49人/日 (年間延17,873人)	50人/日 (年間延18,227人)	50人/日 (年間延18,083人)	49人/日 (年間延18,005人)

病床稼働率は旧総合病院で83～90%、旧小児保健医療センターで68～69%程度で推移する見込



6 滋賀県立病院中期計画の見直しの検討について

○県立病院の課題

- ・新たな地域医療構想について、令和8年度～令和9年度に地域ごとの構想が作成される見込み
- ・病院の経営状況は、医業収益は向上しつつあるが、医業費用も増えており当年度純損益が悪化している
- ・小児病棟移転・小児新棟整備の計画に変更があり、精神医療センターも病棟再編の検討が必要
- ・資金繰りが非常に厳しい状況にあり、経営改善や資金確保対策が急務

⇒課題への対応を明確にするため令和8年度に中期計画の見直しについて検討する。

○令和8年度のスケジュール(案)

案件	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
経営協議会	●第1回経営協議会	●第2回経営協議会	●第3回経営協議会	●第4回経営協議会

※新たな地域医療構想

2040年を見据えて地域全体の医療提供体制を見直すための構想

人口規模や医療機関ごとの実績を踏まえて急性期拠点機能、高齢者救急・地域急性期機能、在宅医療等連携機能等の各医療機関の機能が決定・調整される。

実績は救急車受入件数や医療従事者数、診療領域別の全身麻酔手術件数等が考慮される。

急性期拠点機能に係る議論の進め方（案）

- 各地域には、公立病院や、日赤、済生会、NHO、JCHO等の公的病院等、民間病院など、様々な設立主体の医療機関が存在し、それぞれの経営等の状況が様々である中で、1 - 2年で手術の実施や救急の受け入れ体制等を大きく変える合意形成は現実的ではない。また、患者の医療へのアクセスや、勤務する従事者の雇用など、様々な検討すべき点があることから、急性期拠点機能に関する方針を決定した後、ただちに急性期の症例の集約や高齢者救急の分担等の取組を完結させることは困難。
- このため、以下のとおり、2026年以降協議を開始し、急性期拠点機能を有する医療機関の決定を遅くとも2028年までに行い、連携・再編・集約化の取組の一定の完結は2035年を目途に進めることとしてはどうか。
- また、急性期拠点機能の数については、20 - 30万人に1医療機関を目安とするが、手術件数等や他区域からの流入が多い場合に2つとすることや、人口が30万人超であっても流出が多く、症例数が少ない場合に1医療機関を目安として取り組むこととしてはどうか。

急性期拠点機能の確保に向けた議論の進め方

2026年

【協議の開始】

- 2040年の人口構成や想定される医療需要等を踏まえて、2035年に必要となる急性期拠点機能の数等について検討。
- 将来を踏まえた需要や現在各医療機関が担っている医療の状況や築年数、区域内の医療資源等も踏まえながら、地域医療構想調整会議において、急性期拠点機能の集約化に向けた議論。
- 医療需要を踏まえた適正な医療機関数かどうか等に加え、雇用の観点や、患者の医療へのアクセス等についても併せて検討。
- この間、医療機関機能は一定の地域シェアや症例数で上位の医療機関は報告可能とする。

2028年頃

【取組の決定と取組の開始】

- 遅くとも2028年までに急性期拠点機能を報告する医療機関を決定**し、連携・再編・集約化の方向性を定め、2035年に向けて役割分担の取組を進める。

2035年

【医療提供体制の構築】

- 2035年を目途に、取組を完結させ、目標とした急性期拠点機能を確保**

精神医療に関する地域医療構想の今後の検討体制について（案）

- 改正医療法が成立し、新たな地域医療構想に精神病床が位置付けられたことに伴い、精神科病院における医療機関機能、医療機関機能報告・病床機能報告の内容や、必要病床数の推計方法等について、施行に向けて検討を進めていく必要がある。
- このため、「地域医療構想及び医療計画等に関する検討会」のもとにワーキンググループを設置し、精神医療の専門家や関係者等の有識者に参画いただきながら、検討を進めていくこととしてはどうか。検討に当たっては、2027年（令和9年）10月から病床機能や医療機関機能の報告が開始されることを見据え、精神医療における地域医療構想のガイドラインの策定に向けて、2026年度（令和8年度）中を目途に結論を得るべく、検討を進めることとしてはどうか。

<精神医療に関する地域医療構想検討ワーキンググループ>

○主な検討事項

- 2040年における精神医療の課題とそれを踏まえた地域医療構想における取組の内容
- 精神医療における医療機関機能の考え方
- 精神医療に係る医療機関機能報告及び病床機能報告の内容
- 必要病床数の推計方法 等

○構成員

- 精神医療の専門家、一般医療の専門家、自治体、当事者、学識者 等

○検討スケジュール

2026年（令和8年）春 WGにおいて議論
年度内を目途にとりまとめ

※ ワーキンググループは医政局、障害保健福祉部で開催する。